

科目コード	S11101	科目名	解剖学				
履修区分	必修	開講期	1年前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	牧田 亨介						
授業の概要	人体の基本的な構成（主要器官の配置）を、頭頸部を例として概説する。 構造についての理解だけでなく、組織器官の役割とその連携についても並行して解説する。						
DPとの関連	人間を広い領域から捉え、人を愛する心と専門技術を統合できる能力を身につける						-
	言語聴覚障害学について深い専門的知識を修得し、それを臨床において適切に応用することができる能力を身につける						
	職務遂行に必要な社会性、倫理観、専門職業人としての自覚を身に付け、多様な患者、家族、医療・福祉関係者等と円滑なコミュニケーションを取ることができる能力を身につける						
	複雑で多様な障害について常に科学的に探究する姿勢をもち、積極的に自己研鑽し続ける能力を身につける DP：ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）= 修了までに身に付けるべき資質・能力						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭頸部の構成要素（骨・筋の名称、脳の各部の構造と名称）を理解し、頭頸部がどのように作られているかを他者に説明できる</li> <li>・咽頭部、喉頭部の構造について、部位の名称と関係性を理解する。発声や嚥下の際にどの部位がどう動くか、その機能をつかさどる筋および神経の名称を挙げることができる。</li> <li>・聴覚がどのように脳に伝達されるか、経路にかかわる部位名と感覚刺激の流れを説明できる</li> </ul>						
履修上の注意事項	指定教科書は使用せず、プリントを配布する。ただし構造については、各種図表や模型などを用いて各自で理解を深めることを強く推奨する。						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	解剖学の基礎、人体の基本構成、器官と組織				配布資料、参考図書、模型などをもとに、人体の基本構造を再確認し、自分の体はどこにあたるかを把握する（210分）	
	2	頭部顔面の構造：概説、頭蓋骨、表情筋群、咀嚼筋群				配布資料、参考図書、模型などをもとに、頭蓋骨・構成する個々の骨の名称、鼻腔や口腔の構造、付着する筋の名称と役割を理解する（210分）	
	3	口腔とその周囲の構造(1)：顎関節、舌				配布資料、参考図書などをもとに顎関節および舌の構造を理解するとともに、自身の顎関節・舌を動かしてみてもとの各部の関連を確認する。（210分）	
	4	口腔とその周囲の構造(2)：咽頭、咽頭周囲筋、喉頭、喉頭筋				配布資料、参考図書、模型などをもとに、咽頭・喉頭および周囲の構造を再確認し、特に嚥下時に両者がどのように働か動くかを把握する（210分）	
	5	頸部の構造：声門と声帯、呼吸器系				声門・声帯の構造を理解し、配布資料、参考図書などをもとに、各声帯筋が働いた時の声帯ヒダの動きを整理する（210分）	
	6	頭部の感覚器官：聴覚器（蝸牛）、前庭器官、眼球				配布資料、参考図書、模型などをもとに、各感覚器官の構造を再確認する。どの部分で刺激を受容するか、刺激が中枢に伝達される経路を理解する（210分）	
	7	神経系の構造：抹消神経系器官（脳神経、脊髄神経）				末梢神経の分類、12種類の脳神経の名称、特に感覚や頭頸部の筋の働きに関係するものの働きを区別して理解する（210分）	
	8	神経系の構造：中枢神経系器官（大脳、小脳、脳幹、脊髄）				配布資料、参考図書、模型などをもとに、特に大脳および脳幹の構造と働きを理解する。大脳皮質の機能局在、特に言語に関わるものの区別と働きを整理する（210分）	
成績評価方法	授業終了後にレポート課題を課し、それにより評価を行う。開講期間中に課題を出した場合、合わせて評価の対象とする。ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版【野村巖・編】（医学書院）					978-4-260-03922-2	
	イラスト頭顔面解剖学【松村讓児 編著】（中外医学社）					978-4-498-00040-7	
	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第2版【道健一・今井智子・高橋浩二・山下夕香里】（医歯薬出版）					978-4-263-21720-7	
教員からのメッセージ							
教員との連絡方法							
実務経験のある教員							